

家畜保健衛生所たより

(平成21年度 第7号)

山梨県西部家畜保健衛生所

札幌のイベント会場で展示されていた仔牛とのふれあいが原因と思われる子供たちへの腸管出血性大腸菌O-157の感染がありました

札幌での感染事例は、仔牛に触った手を介してO-157感染したと推定されています。

腸管出血性大腸菌O-157とは、

人や家畜の腸管に存在する大腸菌の仲間、病原性があります。糞便を介して経口感染します。人の症状は、腹痛、(血様)下痢、おう吐、腎障害、脳障害などです。

農場の皆様へ

小・中学生の社会科見学(農場体験)について、特に神経質になる必要はありませんが、見学者の受け入れにあたっては、畜舎を清潔に保ち、次の対策を行って人への感染を防ぎましょう。

農場入口に「糞便にふれないこと」などの注意書きを掲示しましょう。
体験後にはしっかりと手洗いとうがいをし、手指の消毒を実施しましょう。
靴底の消毒を併せて実施しましょう。
また、搾乳体験を実施する際には、牛の乳房炎予防の為に、
体験前に手の消毒(手袋着用)もしましょう。



見学を受け入れていない場合でも、「病原体の持ち込みを防ぐため、関係者以外の立入はご遠慮します」などの注意書きを農場入口に貼っておきましょう。